

●一般演題

田原 淳博士と宇良田 唯博士の生誕150周年を祝う

春日部厚生病院名誉院長・第7回田原アショフシンポジウム会長 高柳 寛

1873年生まれの2人が同時期にドイツ留学

昨年(2023年)は、1873年7月5日に生まれた心臓刺激伝導系の発見者田原淳博士と、同年5月3日に生まれた眼科医の宇良田唯博士の生誕150周年にあたった。

大分県に生まれ、東京大学医学部を1901年に卒業した田原と、熊本県に生まれ済生学舎を卒業して、北里柴三郎の伝染病研究所に勤務した宇良田は、ともにドイツ留学を志し、1903年1月10日横浜港から同じ備後丸で出航した。

田原は、新進気鋭の病理学者アショフ教授の率いるマールブルグ大学病理学教室に籍をおき、哺乳動物の中でも特に羊の刺激伝導系を顕微鏡で詳細に研究し、1906年に『哺乳動物心臓の刺激伝導系』を出版し、世界で初めて房室結節の存在を証明した¹⁾。この本は、後に故須磨幸藏先生と島田宗洋先生のご尽力により、1990年に日本語訳が丸善出版から刊行され²⁾、さらに英訳も2000年にロンドンのImperial College Pressから出版されている(図1)。

宇良田は、バッハ教授の率いるマールブルグ大学眼科学教室で研修を積み、1905年に同大学

で女性初となる医学博士号を授与された。研究一筋の両医師が、田原の医学部同級生の石原誠たちとともに撮影された記念写真が九州大学医学部に残されている。2023年の日本不整脈心電学会誌に、田原淳博士の孫にあたる池田正春先生の特別寄稿として留学の詳細が掲載されている³⁾。

日本への帰国後の業績とその顕彰

田原博士は、1906年に帰国後、九州大学病理学教室に赴任し、後輩の指導と研究に従事したが、近年の心臓電気生理学の興隆に伴い、その業績は再度高く評価されている。

宇良田博士は同年に日本に帰国後、同仁病院を設立し、広く臨床に従事して、多くの功績を残し、熊本大学薬学部等に記念碑が残されている。

2022年12月に、田原の在籍した病理学教室で学位を取得した村田晴海先生やマールブルグ市長たちのご尽力により、同大学構内に両博士の業績を讃える顕彰標識が設置された。同大学医学部長、病理学オーミューラー名誉教授などから祝辞をいただいている⁴⁾。

同じ年に九州で生まれ、医師となって同じ船で横浜からドイツに向けて出航し、同じマールブルグ大学で学んだ男女医師両名への150年後の同大学からの顕彰をお祝いしたい。

田原アショフシンポジウム

私は2010年に第7回田原アショフシンポジウムを東京で開催したが、2008年の第6回田原



図1 原著とその和訳、英訳

Kan Takayanagi : Celebrating the 150th anniversary of the birth of Dr. Sunao Tahara and Dr. Tada Urata

アショフシンポジウムがハイデルベルグで催された際には、須磨、島田両先生らとともにマールブルグ大学を訪問し、病理学教室においてオーミュラー先生にご案内をいただいている。マールブルグ大学は、2027年に創設500周年を迎える伝統ある大学で、ノーベル賞受賞者は10名を数える。中でも第1回受賞者のエミール・フォン・ペーリング博士は免疫学の大家で、ジフテリアの抗血清療法を北里柴三郎と開発したことでも知られている。

田原博士生誕150周年記念特集

昨年は、Journal of Arrhythmia編集長の松本万夫先生とともに、同誌に英文で田原博士の生誕150周年記念文を電子版で発表することができた⁴⁾。獨協医科大学埼玉医療センターから米国UCLAに留学していた堀裕一君の指導教授であるShivkumar教授からも、共著で祝辞をいただいている⁵⁾。彼らは心臓のマクロの映像とミクロの所見をもとにしたTawara McAlpine Museumを大学構内に2022年に設立されている。

房室結節の発見者である田原淳博士の業績

が評価され、多くの臨床例の治療に役立つことを祈って、第62回埼玉不整脈ペーシング研究会(2023年11月25日)での講演内容を紹介させていただいた。

文 献

- 1) Tawara S. Das Reizleitungssystem Des Säugetierherzens. Eine Anatomisch-Histologische Studie Über das Atrioventrikulärbündel und die Purkinjeschen Fäden Gustav Fischer. Jena;1906.
(原著は、故須磨幸蔵教授らにより、1990年には和文で出版され、2000年には英訳もなされている)
- 2) 田原 淳. 哺乳動物心臓の刺激伝導系－房室束とPurkinje線維の解剖学的・組織学的研究. 丸善出版: 1990.
- 3) 池田正春. 特別寄稿 田原淳・九州大学元教授(病理学)を顕彰する道路標識が大学都市マールブルグのロータリー交差点に設置される. 心電図 2023;43:178–85.
- 4) Takayanagi K, Matsumoto K. Editorial; Cerebration of the 150th birthday of Professor Sunao Tawara. J Arrhythmia 2023; <https://doi.org/10.1002/joa3.12914>
- 5) Mori S, Hanna P, Bhatt RV, Shivkumar K. The Atrio-ventricular Bundle: A Sesquicentennial Tribute to Professor Sunao Tawara. JACC Clin Electrophysiol 2023;9:444–7.